

# 滄水会ニュース

第6号

平成3年12月1日

滄水会

職業訓練大学校

〒229 神奈川県相模原市橋本台4-1-1

## 30年を期して訓大に望む

富崎 元成 (機械7回卒)

過日、仕事で知り合った30代前半の銀行員が、『実は私は大学は建築工学です。1級建築士の資格もあります。』という。そこで私が今の仕事は大学の専門に関係あるかと尋ねると、全く関係ないという。彼の口振りからすると、重要な企画の仕事らしいが現在の仕事に満足している様子はない。もっとも収入には不満はないとのことであった。

工学部出身者の製造業離れが言われて久しい。バブル経済が破裂して、この傾向に揺り戻しがかかっているとは言え、基本的にはこの流れは変わらないと思う。製造業の地位低下が激しい米国では、いわゆるWASP (White Anglo-Saxon Protestant) の工学部離れが言われたのは古い。たとえ学んだとしても、ウォール街に就職し、この知識を株の予測に使っているという。

21世紀は、情報化社会、脱工業化社会などと予測されているが果たしてそうであろうか。歴史を引っ張り出すまでもなく、イギリス、アメリカ、古くはローマ帝国に至るまで考えても、そのプロセスは違っても物を作る製造業及び農業の衰退は、タイムラグはあってもその国の衰退につながることは多くの学者が指摘している。

優れた半導体があって、高性能の電子計算機が作れるし、加工精度がよく生産性が高い半導体製造装置があって安く、かつ性能のよい半導体が製造できる。こうして出来た電子計算機システムがあってこそ、銀行

の入金・引出し、株の売買、航空券の予約などいわゆるサービス産業が繁栄しているのである。更に、自動車、家電、工作機械などの産業の例を出すまでもなく、日本の生産、品質管理技術の優位がこれらの産業を支えているのである。

高度な知識社会、情報化社会、更に言えば高度福祉社会は、豊富な物の裏付けがあって初めて成立するものである。このことは、食料、器材など物不足が伝えられるソビエトの例を出すまでもなく明白である。物が豊富な日本社会に埋没していると、ともしれば忘れがちになる。現代日本の強さ及び富の大半は、基本的には製造業が生み出したものと言って過言ではない。

時代の風潮が製造業離れになればなるほど、アナクロと言われようが、訓大はこの製造業の中核である物作りのプロの養成、またその高度化を目指すべきではないだろうか。米国では、産業の衰退に対する反省から、製造業の重視 (別の意見もあるが)、そのための教育プログラムの改革も行われるという。

浮かれた時代の風潮にまどわされることはない。物作りの喜び、大切さを教えることを基本に据えれば、時代がどんなに変わっても訓大の発展があり、他の大学と違う独自性が発揮できると思う。訓大で教育を受けたものとしていつかこれが評価される、否評価されていると私は信じている。

## 就任のご挨拶

学生部長 柿塚 和幸

訓大卒業生の皆さんにご挨拶を申し上げます。本年8月1日付けをもちまして村瀬前学生部長の後任として学生部長に就任いたしました。私は長い間松下電器産業株式会社の本社において、全社を対象とした労務・福祉の業務に携わってまいりました。少なくともわが国の今日の素晴らしい経済発展の一翼を、企業の第一線現場において取り組むことができたことに強い喜びを感じております。わが国だけでなく、世界の人々が求める「電器製品づくり」を通して、人類の幸せづくりに貢献するという使命感が、日々新たな活力となって心を駆り立ててくれました。私は昭和63年4月1日訓大の基礎学科（保健体育）教授として、皆さんの先輩の教育に取り組むことになりました。

その訓大も本年は創立30周年を迎え、新たな未来に向け、訓大の歴史を踏み出すこととなります。先輩たちが職業訓練指導員としてまた、民間企業のすぐれた技術者として活躍しておられることをお聞きするにつ

れ、大きな感動を覚えています。故松下幸之助翁が、松下電器産業株式会社の社長時代にある人から、「あなたの会社は何を作っている会社ですか」とたずねられたとき、「私の会社は人を作っています」と答えられたそうです。わが国の産業界を支え、国際的な繁栄を生み出す素晴らしい「若者づくり」は、先輩の皆さんの「手の中にある」と言えます。技術・技能の学習の中で形成された人間性は、人間相互のすぐれた信頼と未来を創造する夢があります。私は、この「夢づくり」に与えられた人生を考え続けてみたいと思っています。伝統とは、歴史が古いと言うことだけでなく、そこに蓄積された土台に常に新しい価値を生み出す未来を創造するものであることが大切です。同窓生の結集した力は、素晴らしい国造りを創造し続けるものと信じています。私も皆さんと共に、訓大の未来を日々大切にしていきたいと思います。

## つぎの30年にむけて

訓大創立30周年記念行事の一環として、全国の職業訓練短期大学の先生方を中心に組織されている実践教育研究会の研究発表会が、9月25日～27日の3日間にわたって訓大で開催された。講演やシンポジウムをとおして、職訓短大における教育はどう在るべきか、実践教育とは何かについて熱っぽく語り、真真正面から取り組もうとする真摯な姿をみた。同時に、非文部系であるがゆえに、文部教育との異質性を強調することによって独自性を見出さざるを得ないことへの悩み多き姿をみると、私は30年近く前の、そして今日まで続く自らの姿を二重写にしないわけにはいかなかった。

訓大30年の歴史は、一方で職業訓練という宿命を背負いながら教育の独自性を探り、他方で文部教育と同質の面での充実と向上を計る努力の過程である。平成3年8月1日付で、大学と同様に自主的な判断により学位（学士・修士・博士）を授与する独立の機関（国立）として、学位授与機構が開設された。これによって大学・大学院と同等であると認定された各省庁大学校などの修了者に対する学位授与の途がひらかれることになった。訓大も現在、認定審査を受けるための準備作業を進めているところである。

訓大がこうした機会を得ることができたことを、私は卒業生として心から喜びたいと思う。それは訓大が

副会長 久下 靖 征（塗装2回卒）

いわゆる大学の学部に対応する長期課程だけを担当してきたのではなく、設立当初から技能向上・指導員研修・国際コースなど職業訓練の多様な課程を開拓し実施してきた中での成果だと言えるからである。とりわけそれぞれの課程に専属の教員が配置されている訳ではなく、一人ひとりの教員が複数の課程を同時並行的に担当してきたという点は注目されてよい。そのことは突出して優れた研究者を生むことを妨げたかもしれないが、多くの特色ある教育者を、そして研究者を育てることになったとは言えないだろうか。そうした教員集団が今日の訓大を形成しているのである。訓大は30年かかってようやくここまでたどり着いた。そのため30年という時の間が必要であったということである。

学位授与機構の認定に際しては、教育課程、施設設備等のほか、教員組織について厳重な審査が行われると聞いている。母校の大切な時期に、果たして自らが力になり得るのかという忸怩たる思いを抱きつつ、今日までの大学校長はじめ関係部局のご努力に敬意と労いの意を表したい。そして自前の学士・修士の出る日が一日も早く来ることを願う。

チャンスの神様には後髪がないそうである。向こうからやって来るチャンスの前髪を、この手でしっかりと掴み、つぎの30年に向けて船出しようではないか。

## 滄水会支部活動

### 訓大北陸支部同窓会

訓大北陸支部同窓会は、昭和42年5月福井県芦原温泉で、第1回が1期生を中心に参加数7名でスタートしました。第3回まで福井県を幹事県として開催され、北陸支部の基盤が出来上がり、福井・石川・富山に長野・新潟を含め北陸五県として現在まで15回開催されています。会長は福井県在住の1期生定池さんにご苦労頂いております。50年の第8回までは毎年の開催でしたが、オイルショックの影響でその後は2、3年に1度の開催ペースです。44年の第3回に来賓として宮本先生に来ていただき、その後訓大の先生や同窓会本部役員を来賓にお迎えするのが恒例となり、訓大の近況を伺うとともに会員相互の苦労話で会を盛り上げてきました。特に、現名誉教授の清水先生には、53年57年59年と計3回ご足労をおかけしています。指導員養成機関としてより全国的に機能していくためには、このように来て頂くことは非常に有意義なことと考えられ、ぜひ今後とも続けていける方向になることを期待しています。参加人数は45年の第4回富山県立山での開催で25名が集まり、その後30名前後が集まっています。富山県氷見市での第12回には過去最高の43名が集まりました。北陸5県の在住者の5割弱と推定されます。民宿での美味しい魚が食べれるとの宣伝にのせられたようです。やはり、北陸は魚で勝負かなと言うところです。福井県と富山県で開催すると参加者が多いようです。地理的には富山県当りが中心になりま

す。各地の地酒を持ち寄ったり、施設では言えない本音の話が出たり、小平と相模原がごっちゃになったり、結構楽しいものです。

第15回は、62年11月石川県金沢市兼六園近くの会館加賀で開催されました。幹事を石川技能開発センターが担当し、3期生小畑氏（現近江八幡）と12期生弓納持氏が中心となって28名が参加しました。参加者の内訳は、来賓（建築家の谷先生）1名、事業団施設19名、県関係3名、民間5名です。また、在住地別では、福井県が5名、石川県10名、富山県12名となっています。新潟や長野関係者の参加が少ないようです。民間や県で活躍されている方と会うことができる唯一の機会になっている方も多いので、今後とも2年に1度のペースは守っていかれたらと考えています。第16回は富山短大7期生井上氏が幹事となって開催予定ですが、近年、訓大OBの異動が激しく今年度内の開催もなかなかたいへんようです。

（文責 石川短大 浦山雅博 電子科9回卒）

新潟県在住者	16名
長野県 "	11名
富山県 "	16名
石川県 "	11名
福井県 "	14名

（事業団職員のみ）



### 第12回塗装研究会 in 郡山

塗装科卒業生を中心に福島県内の塗装科指導員相互の研賛と親睦をかねて塗装研究会が発足しました。昨年平成2年11月某日、郡山会場で第12回塗装研究会に福島県職業訓練課長を迎えて実施することが出来ました。

手探りの状態から業界の最新情報並びに会員同士の情報交換と10年近い実績の中からお互いの成長を感じる事が出来ました。4人の大先輩に対して

送別会も開く事が出来ました。事務局（0245-22-6503：齊藤）も福島雇用促進センターの16期生の齊藤（旧姓博多）君にバトンタッチを致しました。今後新たな形で運営されることが期待されております。平成3年度の会場は内郷技能開発センターで時期は11月であります。お問い合わせは事務局までお願い致します。

（文責 会津技能開発センター 上杉政文 塗装科7回卒）

## 滄水会支部活動

### 訓大OB会 千葉支部

会長 酒井 玄武 (建築科2回卒)  
千葉職業訓練短期大学校  
事務局長 中島 正彦 (木工科5回卒)  
千葉職業訓練短期大学校

#### ① 構成

千葉県内における訓大OBの人数は、事業団関係施設が国内でも最も多く(高度技能開発センターおよび西千葉分所、君津技能開発センター、海外職業訓練協会、千葉職業訓練短期大学校千葉校および成田校、千葉雇用促進センター)自ずからこれらへの就職が多く、約70名です。さらに、民間企業へは約70名の方が活躍しており、また県関係その他の職種へ約30名のOBの方が活躍しています。総勢約170名のOBの方が千葉県内において、国、県、企業と分野は様々ですが精力的に千葉県の繁栄、はたまた国のために活躍しています。

#### ② 活動状況

昭和42年、千葉総合高等職業訓練校内にて10名足らずのもとでスタート。その後年々人数もふえ現在では約170名となり、年一回をめやすに2月~3月の間に会合を開いています。

仮称 千葉県在住・在勤訓大OB会(千葉県滄水会)  
窓口は千葉職業訓練短期大学校(0472-42-4166)

今年3月2日(土)にOVTAにて、訓大より村瀬学生部長、清水前学生部長及び滄水会・久下副会長を招き盛大に開催しました。

#### ③ 東京ベイ・イースト

今いちばん気になる街「CHIBA」と題して、千葉県内を散策したいと思う。

以前千葉県と言えば、大都市東京の隣県でありな



がら、駄際、田舎臭いと言ったイメージが抱かれていたが、臨海都市計画の一環としていま最も注目を集めている千葉。幕張メッセ(モーターショー、世界卓球選手権、その他多種イベント開催)並びに国民的、いや世界中に知名度の高い東京ディズニーランド(この名称に関して千葉県として異義のあるところではあるが、今だ千葉県のインパクトが弱いためそれほど強く申し立てすることができず…)、成田市に位置する新東京国際空港に関してもしかり。さらに、来年度からはプロ野球の最強(?)チームが千葉マリスタジアムにやってくる(ロッテ)。

その他、今年から開通した千葉市内を運行の千葉都市モノレール、新宿副都市/筑波山/富士山が一望できる高さ125mの千葉ポートタワーがある。東京湾埋立てによる稲毛海浜公園のヨットハーバー、テニスコートなどのレジャーランド、目を東へ向けると、三方を海に囲まれた温暖な気候に恵まれた房総半島は、半島まるごとレジャーランド、そして冬でもサーファーの姿が絶えないマリンスポーツのメッカである。

このように、千葉県内を散策しましたが、今の千葉は昔のイメージから脱皮しつつあります。ただ自然の美しさがこのような都市計画のもとに破壊され、失われつつある姿を思うと、小生何とも言えぬ感情に思いを寄せられます。

(文責 千葉短大 秦 啓祐 木材加工科15回卒)

### 訓大OB会福島支部結成準備会?開催



福島県内の訓大卒業生一桁組もそれぞれにまわりの気になる年代に入ったのでしょうか、同窓会があれば一層おもしろくなるということで、塗装研究会のメンバーを中心に、いわき市を会場にして連絡の取れる範囲で集まりました。ゴルフ大会そして懇親会には小名浜にある野崎君(8期入学)自営割烹旅館野崎荘で13名の参加でありました。今回は準備会のための準備会のようなものであります。

現在名簿作成中でもありますので、近いうちにOB会なるものができるものと思って頑張っています。

(文責 会津技能開発センター 上杉政文 塗装科7回卒)